

概要

- 大分県玖珠郡は本県の中でも肉用牛繁殖農家が多い地域であるが、規模拡大による労働力不足や高齢化や後継者不足を要因として農家戸数が減少している問題を抱えている。
- キャトルステーションは、農家で分娩した子牛を離乳後、子牛共同育成牛舎で育成することにより、高齢者・大規模農家等の子牛に関する日常管理労力を軽減し、子牛の品質を均一化することで市場価格の向上を図ることができる。また、子牛を預けることで委託者の畜舎の子牛の飼養スペースが空くため、繁殖用雌牛の増頭が可能となり、増頭への設備投資が抑制できる。
- そこで、JAを中心として県、町そして生産者が協力して「玖珠郡キャトルステーション」を設立。令和6年4月から稼働を開始している。

具体的な成果

1 子牛の受入

- 令和6年4月から毎月子牛の受け入れを実施。
- 令和7年2月末実績で33戸の農家が利用。頭数にして184頭の子牛を受け入れている。



2 子牛の育成

- 子牛の飼養管理体系は先進例である「豊肥キャトルステーション」の体系を参考に作成。
- 餌の給与量や衛生対策については農場定例会の中で現場と協議しながら調整している。
- 受入子牛は200日齢を目途に全頭体測を実施。個体毎に発育を確認しながら管理をしている。

3 子牛の出荷

- 令和7年8月市場から出荷を開始。
- 市場では比較的高い評価を受けており、令和7年2月末実績で市場平均と同等以上の成績を出している。



普及指導員の活動

～令和6年

- キャトルステーション運営協議会の設置。普及はそのうち「運営」部門に関与
- 飼養管理、衛生対策、子牛受入条件等の検討を実施
- 県内の先進事例である豊肥キャトルステーションの成績を分析

令和6年

- 玖珠郡キャトルステーション操業開始。4月から子牛受入を実施
- 8月市場から出荷を開始。市場に出向き種々のデータを収集
- 定例会へ参加し、改善策などを提案

普及指導員だからできたこと

- 先進地である豊肥キャトルステーションの出荷成績の分析を行い、共同育成牛舎で子牛を育成することのメリットを農家に説明した。
- JAの広域専門指導員（県OB）や現場職員と定例会に参加し、受入子牛の現況を把握。餌の給与量や衛生対策について情報を共有し、状況に応じてマニュアルの見直し等を行っている。

大分県

玖珠郡キャトルステーションの設置による作業外部化の推進

活動期間：令和5年～（継続中）

1. 取組の背景

大分県玖珠郡は肉用牛繁殖農家戸数が県全体の約2割を占める産地であるが、肉用牛繁殖農家戸数が高齢化や後継者不足を要因として減少しており、規模拡大を実施するのに労働力が不足することが問題となっている。

こうした中、同じく繁殖産地である豊肥地域において一定の効果を上げている「豊肥キャトルステーション」（以下豊肥CS）と同様の設備を求める地域からの要請を受け、高齢者の作業省力化及び安定した繁殖牛の増加を目的に、玖珠郡においてもJAを中心に町や県、生産者により設置を検討してきた。キャトルステーションは、農家で分娩した子牛を離乳後、子牛共同育成牛舎で育成することにより、高齢者や大規模農家等の子牛に関する日常管理労力を軽減し、子牛の品質を均一化することで市場価格の向上を図ることができる。また、子牛を預けることで委託者の畜舎の子牛の飼養スペースが空くため、繁殖用雌牛の増頭が可能となり、増頭への設備投資が抑制できる。

数年にわたる協議を重ね、「玖珠郡キャトルステーション」（以下玖珠CS）が令和5年度に完成し、令和6年4月から稼働を開始した。



2. 活動内容（詳細）

（1）稼働に向けた関係機関との連携

普及指導員は、令和5年に設置された「キャトルステーション運営協議会」に参加し、協議会におけるキャトル運営部会の運営方針について検討した。運営部会では飼養管理や衛生対策、子牛受入条件等の検討を行い、特に先進事例である豊肥CSの出荷分析を実施した。

（2）玖珠CS稼働開始に係る支援

玖珠CSは令和6年4月から子牛を受け入れ、稼働を開始した。様々な環境から子牛が集まってくるので、その育成については日々問題が出てくる。その問題に対し、現場と各関係機関（JA、県振興局等）が認識を共有し、それぞれの得意分野を最大限に活かし対応できるよう毎週農場定例会を開催している。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）子牛の受入

令和6年4月に初の受入を実施。本格的に稼働を開始した。預託子牛は4ヶ月齢を目安に受け入れており、子牛受入の際にはJAや家畜保健衛生所と連携し、導入時の体測（体重や胸囲）に加え、血液・糞便検査、抗生物質やワクチンのウェルカムショットを行い、様々な環境から集まった子牛の現状把握と病気の予防を徹底的に行う（写真1）。



写真1. 受入時の血液検査

これまで、令和7年2月末実績で33戸の農家が利用。頭数にして184頭の子牛を受け入れている。

（2）子牛の育成

子牛の飼養管理体系は県内の先進例である豊肥CSの体系を参考に作成したが、実際の餌の給与量や衛生対策は牛の状態や季節によって変わってくるため、毎週行われる農場定例会において県OBである広域専門支援員や現場職員と協議しながら決定される。

また、預託子牛は200日齢から月に1度全頭体測を実施。個体毎に発育を確認しながら管理をしている。

（3）子牛の出荷

預託子牛は4ヶ月程度の育成期間を経て出荷される。玖珠CSの初出荷は令和6年8月の玖珠市場となった（写真2）。

これまでの出荷頭数は令和7年2月時点で去勢66頭、雌26頭という状況である。市場全体平均と比較して同等以上の成績となっている。



写真2. 玖珠CS出荷牛

4. 農家等からの評価・コメント（玖珠郡玖珠町I氏）

始めは自分の子牛を預ける気はなかったが、キャトルステーションの状況や市場に出てくる子牛を見たら、いいと思ったので預けることにした。実際に預けると自分のイメージ以上に仕上がり、成績も改善した。子牛を預けた分余裕ができたので、他の仕事も充実している。引き続き利用していきたい。

5. 普及指導員のコメント（広域普及指導員・衛藤氏）

玖珠CSは稼働してまだ1年という施設であり、実績を評価するにはまだこれからといったところであるが、出荷成績では多くの購買者から評価されている。受入頭数の拡大等課題はまだ山積しているが、地域の農家から高い評価を得られるよう引き続き支援を行っていく。

6. 現状・今後の展開等

玖珠CSから出荷される子牛についてはこれまで一定の評価を受けてきた。現在、子牛市場での評価のみならず、肥育農家に渡った子牛が最終的に肉としてどのような評価を受けるか追跡調査を行っている。不足する受入頭数の確保は急務であるが、子牛相場が回復傾向であるので、受入目標頭数の達成に向けキャトルステーションに子牛を預けるメリットについて、これまでの成績等実績を交えてアピールをし、目標頭数の確保を目指す。また、飼養管理については引き続き関係者で協議をしていきながら、より購買者に喜ばれる子牛づくりを行っていききたい。